

エంతタ



笑福亭 たま

大阪の落語家の正月は二回ある。元日とは別に十二月十三日を「事始め」と呼び、弟子は師匠の家に「おごつとおさんでございます」と餅を持ってあいさつに行く。「正月中、芸人は忙しいので前倒しでやる芸人の正月」「琴の弦が十三本なのになみ、こととを始める」で十三日」「事始めをするのは、上方落語界と、芸者・舞妓の花柳界、そして神戸の反社会勢力、この三つの世界だけがする風習」と師匠から教えてもらった(真偽不明)。しかも東京にはない上方の落語界の一つのセレモニーである。

芸人はセレモニーにうるさい。私の師匠＝笑福亭福笑は

■ 師匠と年賀状 ■

他人から来た年賀状によく怒る。まず、元日より遅れて来る年賀状を出す人にむちゃくちゃキレる。師匠曰く「年賀状とはそもそも虚礼や。せんでもええセレモニーや。せやけど」去年一年お世話になりました、今年もよろしくお願ひします」という感謝の気持ちを表したのが年賀状やないか！それが遅れてどうすねん！感謝の気持ちがあええかげんやったら、せんほつがマシや！そいつの気持ちがええかげんちゆう事やないか！つまり俺をナメてる言つことや！との事。恐らく、チュートリアルの徳井さんみたいな人は絶対遅れるからダメだろう。

あと、家族写真の年賀状にも怒る。私は家族の様子や子

感謝ないのはアカン

供さんの成長を見るのは好きだが、私の師匠は真逆だ。「子供の写真を見せて、こんな大きくなりました」って、知るかあつ！年賀状とは、せんでもええセレモニーや！感謝の気持ちを表すのが年賀状や！おまえとこの子供の成長なんか、感謝と関係ない！との事です。実際、家族の写真をゴーン被告がレバノンから送って来たたら複雑な気持ちになるだろう。

あと表面も裏面も全部パン



今年の年賀状を持つ筆者

コンの印字やった場合も「年賀状とは虚礼や！…何一つ自分の字を書かへんで、どんだけ横着やねん！感謝の気持ちが無い！」との事。言われてみれば一理ある。実際、私の師匠は、千人以上のお客さま一人一人に年賀状の宛名を手書きしている(！)。しかも裏面は自分でデザインした絵柄をプリントゴッコで作成し、そこに手書きで「ヤッホー！」と書いている。この「ヤッホー！」は感謝の言葉に当たるのかは疑問だが、心はこもっている。芸人はセレモニーにうるさいが、儀式とは全て虚礼なだけに、心こそ必要なのだ。

(落語家＝次回掲載は二月十三日)